「変化に気づく力」

中国学生卓球連盟　幹事長　古川　令

　この度は、第4回「日学連アゴラ」に文章を掲載していただけること、この場をお借りして感謝申し上げます。

　第4回ということで、先に掲載された他の幹事長の文章を拝見した上で書いているのですが、どの文章も個性的で筆の立つ文章ばかりで、理系だからと国語を軽視していた高校時代の自分を叱責したい気持ちになります。拙い文章ではありますが、ご一読いただけますと幸いです。

　私が所属する広島大学体育会卓球部は学部3年生の夏の大会を区切りとして現役生を引退することになっており、つい先日私も現役生としての活動に幕を下ろしました。広大卓球部では引退の際に部員に対して挨拶をするのですが、その時に話したことを交えてこの場で書かせていただこうと思います。

　私は引退の挨拶の際に後輩に対して「他の人の変化に気づくことができる人になって欲しい」と伝えました。私自身、人に頼るということが苦手でして、少し前に精神的に厳しい時期がありました。外には明るく振る舞おうと心掛けてはいたのですが、同期の仲間たちは無理をしていたことに気づき、いろいろな場面で支えてくれました。そのおかげで無事に引退までやりきることができ、仲間達にはとても感謝しています。私がそうであったように、支えあえるチームを後輩たちが作り上げてくれること期待して挨拶としました。

　人の様子の変化にのみ焦点を当てて話をしましたが、大事なことは人に限らず様々な物事の変化に気づくこうとする態度なのかもしれません。ニュートンが重力を発見したように、アルキメデスが水の溢れ出る水の量の違いから密度を測定したように、実際に今の科学技術の進歩は日常生活の変化を観察して発展していったものばかりだと思います。偉人のように難しく考えることはしなくとも、今と昔や何かの差異など変化や違いを意識して生活してみるといつも暮らしている景色の中にも新たな発見を見つけることができ、世界が色鮮やかに見えてくるのではないかと思います。外に出た時に少し「変化」をさがしてみてはいかがでしょうか。

最後になりますが、中国学連幹事長としまして、日学連の活動に尽力致しますのでご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。また来年度全日学選抜が岡山県にて開催されますので、その際にご協力いただけましたら幸いです。

最後までお読みいただきありがとうございました。